

第33回学校給食作文コンクール 最優秀作品集



平成29年11月

苫小牧市学校給食会



「給食時間は仕合わせな時間」～審査を終えて～

苫小牧市立沼ノ端中学校
校長 勝 洋 一

第33回学校給食作文コンクールに見事入賞された17名の児童生徒の皆さん、おめでとうございます。今年度は、小学校から64点、中学校から43点、合計107点の応募がありました。どの作品からも、毎日の給食を楽しみにしている姿が思い浮かび、また給食に対する思いや願いが伝わってきて、子どもたちはこんなことまで考えているんだと感心させられたりしました。

小学校低学年の作品では、給食の時間がとても楽しみで楽しくて、学級が笑顔でいっぱいになったり、センターで働いていたおじいちゃんのレシピが載っている秘密？の手帳のこと、苦手はあるけれどがんばって食べていたり、また給食を完食することがきっかけで弱虫や泣き虫でなにもできない自分から抜け出すことができ給食に感謝していることや作ってくれている方々へのありがとうの気持ちなどが低学年らしく表現されていました。

小学校高学年の作品では、紛争などが起こり食糧不足で食べようにも食べることができない子どもたちに思いを馳せたり、給食センターに勤めていた祖父の話聞くうちに、献立表に書かれている材料に興味を持ち、いろいろな発見をしたこと、更に、たくさんの栄養や友達との楽しい時間をくれる給食は自分にとって宝物であるという思いやホームステイに来たアメリカの高校生との話の中で昼食文化の違いを知り、改めて日本の給食はすごいと感じたことなどが、書かれていました。

中学生の作品では、自身の食物アレルギー克服に関わるエピソードから栄養や食材、調理などに話題を広げ、給食の意義について述べていたり、給食と日本の年中行事との結びつきや地産地消によって地元の産業を守っていくことにつながることに、給食カレンダーを楽しみにしていること、苫小牧の給食のゼリーがとても美味しいこと、世界の中には満足に食事をしていない人々が大勢いるにもかかわらず日本の食べ物は大量に破棄されている現実に食べ物を粗末にせずに残さず食べようという呼びかけなど、中学生としての視点で書かれている作品が多かったと思います。

どの作品にも共通していることは、「感謝の心で、残さずに食べよう」という気持ちがあふれていることです。そして、学年が進むほどに「食べられることは当たり前ではない」という思いに至っていることです。子どもたちは、私たち大人の行いを見て育ちます。子どもたちの作品を読みながら、大人が自分の食生活について改めて考えなければならない～きちんと栄養を考えて食べているのか、偏った食べ方をしていないか、作ってくださった方に感謝の気持ちを忘れてはいないか、残さずに食べているか、などなど～と感じました。給食センターの皆さん、これからも子どもたちが安心して食べることができ、かつ美味しくって栄養満点の給食をどうぞよろしくお願いいたします。

給食時間が、子どもたちにとって仕合わせなひとときでありますように...

第33回学校給食作文コンクール 入賞作品

【 最優秀賞 】

小学生の部

1学年の部	糸井小学校	1年1組	山崎 紗和	「だいすきなきゅうしょく」
2学年の部	美園小学校	2年2組	渡邊 杏香	「ありがとうのきゅうしょく」
3学年の部	苫小牧東小学校	3年1組	清水 樹	「給食が大すきな理由」
4学年の部	拓勇小学校	4年4組	丹波 椋琳	「楽しみな給食」
5学年の部	ウトナイ小学校	5年4組	池田 慎一朗	「給食がくれる宝物」

中学生の部

1学年の部	青翔中学校	1年8組	和泉 真奈	「私の給食への思い」
3学年の部	啓明中学校	3年2組	網代 千愛	「給食のもう一つの役割」

【 優秀賞 】

小学生の部

2学年の部	拓勇小学校	2年1組	丹波 柚椋	「大すきな学校のきゅうしょく」
3学年の部	錦岡小学校	3年1組	高田 芽萌	「わたしときゅう食」
	ウトナイ小学校	3年4組	池田 詩	「大好き！給食」
4学年の部	錦岡小学校	4年2組	植原 由希	「大好きな給食と感しゃの気持ち」
5学年の部	美園小学校	5年2組	加地 小雪	「すごいな、わたしたちの給食」
6学年の部	錦岡小学校	6年1組	宮本 暖唯瑠	「食べることに感謝して」
	錦岡小学校	6年1組	高橋 風汰	「食べれることは当たり前ではない」

中学生の部

1学年の部	青翔中学校	1年6組	掛端 真由	「カラフルゼリー」
2学年の部	苫小牧東中学校	2年1組	千葉 海音	「給食のありがたみ」
3学年の部	啓明中学校	3年2組	木村 結衣	「食べられることへの感謝」

応募点数 小学生64点 中学生43点 合計107点

目次

《小学生の部 最優秀賞》

- 1学年の部 題名「だいすきなきゆうしよく」・・・1
糸井小学校 1年1組 山崎 紗和
- 2学年の部 題名「ありがとうのきゆうしよく」・・・1
美園小学校 2年2組 渡邊 杏香
- 3学年の部 題名「給食が大すきな理由」・・・2
苫小牧東小学校 3年1組 清水 樹
- 4学年の部 題名「楽しみな給食」・・・3
拓勇小学校 4年4組 丹波 椋琳
- 5学年の部 題名「給食がくれる宝物」・・・4
ウトナイ小学校 5年4組 池田 慎一朗

《中学生の部 最優秀賞》

- 1学年の部 題名「私の給食への思い」・・・5
青翔中学校 1年8組 和泉 真奈
- 3学年の部 題名「給食のもう一つの役割」・・・6
啓明中学校 3年2組 網代 千愛

小学生の部 最優秀賞

1学年の部 糸井小学校 1年1組 山崎 紗和

だいすきなきゅうしよく

わたしは、きゅうしよくがだいすきです。きゅうしよくは、おいしいし、いろいろなメニューがあります。だから、まいにちきゅうしよくのじかんが、まちどおしいです。

一ねん一くみのきゅうしよくのじかんは、みんなにここにこえがおです。おもしろいことをしてくれるおともだちもいて、どんだんたのしくなります。でも、きゅうしよくをのこしたひは、やさいやおこめをつくっているひとと、おりようりをしてくれたひとに、「ごめんなさい。」というきもちになります。ぜんぶたべたひは、すぐくうれしいし、「おいしかったよ。ありがとう。」というきもちになります。だから、にがてなものもがんばって、できるだけのこさずぜんぶたべたいです。

これからも、一ねん一くみのせんせいやおともだちと、ここにこえがおで、だいすきなきゅうしよくをたのしくたべたいです。

2学年の部 美園小学校 2年2組 渡邊 杏香

ありがとうのきゅうしよく

わたしは、まい日きゅうしよくがたのしみです。四時間目ぐらいになると、おなががすいてきて、きゅうしよくまだかなと思いつながらべんきようしています。

わたしがすきなきゅうしよくは、フライ、むぎごはん、ミニトマト、スライスパン、クロワッサン、しらたまじる、あげぎようぎ、ゼリーやプリンなどのデザートです。フライやあげぎようぎは、カリッとしているところがおいしいです。しらたまじるは、中に入っているしらたまだんごがもちもちしていておいしいです。デザートが出る日は、すぐくうれしいです。

けれども、学校のきゅうしよくの中で、にがてなものもあります。プルーン、くろまめ、白まめ、グリーンピースです。今は手がだけれど、きゅうしよくセンターの人たちがいっしょうけんめいつくってくれたので、たべられるようになりたいです。

それから、出せないと思うけれど、りんごやキウイなどのフルーツが出たらうれしいです。

いつも、みんなのきゅうしよくをつくってくれて、ありがとうございます。これから、つくってくれている人のことをわすれずに、きれいにかんしよくしたいです。

3 学年の部 苦小牧東小学校 三年一組 清水 樹

給食が大すきな理由

ぼくは、今給食が大すきです。

でも、一年生のころはちがいました。ぼくは、この東小学校に入学して、はじめて給食を食べました。

一年生のころは、いつものこしてばかりいました。苦手なトマトがよく出てくると、りようが多かつたりして食べきれませんでした。給食の時間になると、(また完食できないかもしれない。)と思い、給食の時間がいやになっていました。

苦手なトマトが出て、一口食べないとだめなんです。一口食べるにつれて、だんだん一口食べるのがよゆうになってきました。人は、このようにして一歩ずつ前に進むことができます。人は、このようにして一歩ずつ前に進むことができます。そして、この一歩がとても大事という事に気がつきました。それから、給食もだんだん食べられるようになっていきました。

給食にカレーライスが出た時がありました。その時、はじめてかん食できました。みんなが一せいに、「おめでとう。」と言ってくれました。友だちの思いやりが感じられました。さいしよは、弱虫なぼく、なき虫なぼく、何もできないぼくでしたが、全部食べられてうれしかったです。

今三年生になって、いつの間にか給食を大すきになっていました。体育の時間に中田先生が、「本当のときは自分。」と

言っていました。ぼくは、それを聞いて、ぼくの中にいる弱虫なぼく、なき虫なぼく、何もできないぼくをやっつける事が出来たのかなと思いました。家族、先生、そして友だち、みんながたすけ合ってくれたから、今の自分があることに気づきました。ぼくは今、みんなのおかげで、とても明るいです。

今でも、きれいなメニューの日もあります。だけど、きらいでも何だっついていいんです。少しずつ、一口ずつ食べ続けていくうちに食べられるようになるはずです。

「これがきれい」とすききらいするのは、「これ、やりたくない」「あれ、めんどうくさい」ということにつながる気がします。そんなことばかり言っていると、ろくでもない大人になってしまいます。大人になってから後かいしないようにしないといけません。そのチャンスがぼくは給食だと思っています。

今の自分になれたきっかけは給食、だからぼくは給食が大すきです。

楽しみな給食

私は、給食が大スキです。いつも四時間目になると給食のことを思いうかべて、がんばれる気がします。給食は、毎日ちがったメニューが出るので楽しみでワクワクします。また、食育のしどりの時間に、えいようについて関係することを教えてもらったりして、給食の大事さを学びました。

私の大スキな給食のメニューは、カレーライスときこのココリムスパゲッティです。カレーライスは、いろいろな野菜が入っているのです、少し、苦手な「にんじん」も、おいしく食べられて、とつても大スキです。きのこクリームスパゲティは、きのこがたつぷりでクリーミーなソースがめんとよくからんでおいしいです。もう一つ私のすきな物は、給食クレープです。つめたくて、デザートには、うれしい一品です。さいきんでは、あまり出なくなってしまうので少しざんねんです。また、給食クレープを食べたいです。苦手なメニューは、今は無いけれど、一・二年生の時は、ミニトマトが苦手でした。家では、いつも苦手で食べていかなかったけれど、みんなといっしょに一口食べてみると、苦手でも、おいしく感じる事ができて、だんだんとすきになってきました。

給食は、いろいろなえいようを考えながらつくっているし、毎日、毎日ちがうメニューを出してくれています。私は、毎

日お母さんが、夜ごはんのメニューを考えているのを見て、とても大変そうだなあと思ったことがあったので、それ以上のメニューを考えている給食センターの人は、とつてもすごいと思います。学校の生と全員分を、大量に作ってくれます。私なら、ぜつたい出来ないと思います。このようなことを、ほぼ、毎日やってくれる給食センターの人たちが、本当にすごいと思います。そのおかげで、私たちは、すごくおいしい給食を毎日食べられています。毎日おいしい給食を作ってくれてありがとうございます。これからおいしい給食をたくさん作ってください。そして、デザートをふやしてください。

給食がくれる宝物

昔、給食センターで働いていたぼくのおじいちゃんは、ぼくが給食の話をすると、いつもうれしそうに聞いてくれます。「今日のカレー、とてもおいしかったよ。」とぼくが言うと、

「給食のカレーには、いろんな食材が入っているんだよ。」と、おじいちゃんは給食のことをいろいろ教えてくれます。おじいちゃんの話聞いてるうちに、給食のことをもっと知りたいと思ったので、こん立表を見てもみることにしました。いつもはメニューしか見ていなかったのですが、じっくり見てみると、使っている食材や調味料、栄養など、いろいろな情報が書かれていました。カレーについて見てみると、ぼくが思っていた以上にたくさんさんの食材や調味料が使われていて、とてもおどろきました。これがカレーのおいしさのひみつなんだろうなと思いました。

こんなにたくさんさんの食材が使われている給食は、とてもおいしいだけでなく、栄養のバランスもしっかり考えられている、ということが改めてわかりました。

こん立表には、使われている苦小牧産の食材についても書かれていました。「地産地消」という言葉を社会で勉強しましたが、給食でも地元の食材を使う工夫をしていることがわ

かりました。

そんな給食を作っているセンターはどんなところだったのかをおじいちゃんに聞いてみました。中でも、大変だったことは、衛生にとっても気をつけていたということです。食べ物をおつかうので、いつも体調管理をしっかりとっておくことが大切なんだそうです。給食センターで働く人たちは、ぼくたちのことを考えて、いろいろな工夫をしたり、気をつけたりして、一生けん命給食を作ってくれていることに、ぼくはとてもうれしく思い、さらに給食のことが好きになりました。ぼくはクラスのみんなと給食を食べる時間も好きです。おいしい給食を食べながらだと、友達とする会話がもっと楽しいものになります。何気ない会話でもり上がるこの給食の時間が、ぼくにはとても大切な時間です。

多くの栄養や友達との楽しい時間をくれる給食は、ぼくの宝物です。給食を作ってくれる人たち、友達や先生、家族など、たくさんの人たちのおかげで、おいしい給食、楽しい給食の時間が成り立っているというところに、改めて気づきました。これからは、がんばって作ってくれた給食をもっと完食できるように、そして友達と楽しい時間をもっと過ごせるように、「いただきます。」と「ごちそうさま。」の中に、感じやの気持ちをこめて、給食を食べようと思いました。

中学生の部 最優秀賞

1学年の部 青翔中学校 一年八組 和泉 真奈

私の給食への思い

私の朝の日課は、給食献立表を見ることである。特にナン、枝豆コロッケ、豚肉の生姜炒めの日は、給食が待ちどおしい。私は小学校三年生まで乳製品や小麦類、魚類等の食物アレルギーがあった。パン、麺、デザート等アレルギーが出る食品の献立の時には、学校に代替食を持って登校していた。アレルギーを治療するために入院したこともあった。一口ずつ摂取しながら食べられるか確認し、少しずつ量を増やしながら食べられる様になってきている。「早く治して、皆と一緒に給食を食べたい。」と、私は毎日の様に思っていた。その思いは、私が六年生の時にほぼ近づいていた。家でもアレルギーを少しでもなくそうと地道に努力をし続けている。今でもまだ、口にできない食品が色々あるが、私が願っていたことがほとんど叶い、とても幸せだ。

六年生の時に、学校の授業で栄養について勉強をした。一日の給食の中には、「たんぱく質」、「炭水化物」、「ビタミン」、「無機質」、「脂質」、がバランスよく含まれる様に栄養士さんが考えられてくれている。そして、給食が小学校や中学校

に届くまでに色々な方々が関わっていることで、私達は美味しく給食をいただくことができることが分かった。給食には、私達の体のことを思い、栄養バランス、味を考えて献立を作成してくださる栄養士さん、自然の恵みでできた食材を使って美味しい味になる様、調理をしてくれる方々、作られた給食を運ぶ方々の思いが私達の手元の給食に込められていると思うと、私は感謝しながらいただきたいと思う。給食を残すことになってしまうと、思いを込めて作っていた方々が、給食センターに戻ってくる残飯を見て、悲しみがあふれ出てくると思う。私は、苦手な食材やアレルギーで食べることができない食材もあるけれど、食べることでできる給食は、食器に盛られた分だけしか分らないことなので、このまま健康な体を保っていききたいと思う。

最後に私は、一つ考えていることがある。それは、誰もが食べられる献立を少しでも増えていくことである。理由は、私の様にアレルギー体質の人が小中学校に沢山いると思うからだ。例えば、麺やパンは小麦でできているが、米でも作ることが可能である。北海道は、全国で米の生産量が第二位の地域なのである。米粉を使用したパンや麺、ケーキ等のデザートなら、アレルギー体質の人でも安心して食べられると思う。

市内や道産の食材を沢山使用してもらい、調理していただき、学校の全員と一緒に同じメニューの給食を食べることができて楽しい給食時間を過ごすことを私は夢みている。

給食のもう一つの役割

給食の献立表には、メニューだけでなく、給食で使われた地元の食材のことや、食に関わる季節に伴った年中行事について書かれている。このように見えていくと、給食は単なる『お昼ご飯』ではなく、私たちの生活に結び付いていることに気が付いた。

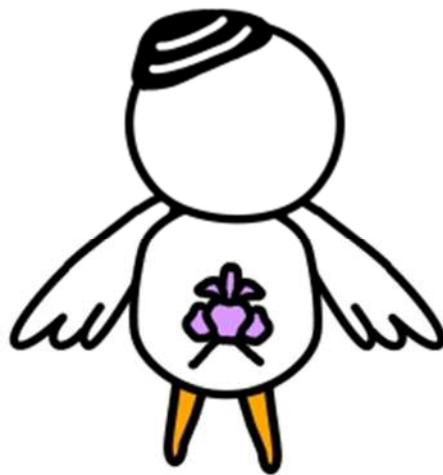
現在、日本では昔から受け継がれてきた年中行事への関心が薄れつつあるように思う。父母や祖父母との会話の中で、「昔は、○○だった。」「昔は、季節ごとに○○をしていたけど、今はしなくなつた。」といった言葉を時々耳にする。ということ、私たちが大人になった時には、もはや年中行事というものはなくなっている可能性がある。この状況にブレーキをかけたり、年中行事といった伝統を大切にしていく必要があると伝えたりしているのが『給食』であるように思う。献立には、『節分』には豆、『七夕』には七夕ゼリー、『冬至』にはかぼちゃなど、年中行事に関する食べ物が出される。これらを食べたり、容器の表示を見たりして、年中行事を知る人も少なくない。また、献立表のコラムを読んで、地元の食材について知ることもある。

私は小学生のときに『地産池消』を習った。地産池消は、食料自給率を上げたり、地域を活性化させたりする効果があ

るので、多少値段が高くとも、地元の食材をもっと使用することが大切だと思う。大切にすることで、日本の農業や漁業を守ることもつながるのだ。

私は、今まで給食を食べる時は、「○曜日だから、○○だ。」とか、「栄養バランスを考慮して作られているんだ。」と、ほとんど何も考えていなかった。しかし、これからは、日本の伝統でもある年中行事について考えながら献立表を見たり、給食を食べたりするようにしていきたい。そして、日本の食文化としてこれからも受け継がれるように、私に何ができるか考えていきたい。また、地産池消についても、地元の食材を使った献立を考えてみるなどしていきたい。そうすることによって、今までと違った給食の楽しみ方もできるように思う。

また、今年で九年間食べてきた給食も終わる。これからも、給食のありがたさを感じながら食べていきたい。



苫小牧市学校給食会

平成29年11月発行

第1学校給食共同調理場

〒053-0053 苫小牧市柳町1丁目3番5号 0144-57-5881

第2学校給食共同調理場

〒059-1272 苫小牧市のぞみ町2丁目7番3号 0144-67-1815